

平成 28 年度社会福祉法人遠野市保育協会事業報告書

平成 28 年度は、当協会が設立されてから 43 年目の年度でありましたが、平成 28 年スタートの第 2 期健全経営計画の的確な取組みや宮守 3 園（公立 3 園）の運営移管、社会福祉法人の制度改革への適切な対応など“新たなスタートの年”と位置づけ、協会を取り巻く様々な環境の変化に対応しつつ各種事業を取り組みましたので、次のとおり添付資料と併せて事業報告します。

1 法人運営の状況

第二種社会福祉事業である保育園 13 ヶ所及び児童館 6 ヶ所の指定管理並びに児童クラブ 5 ヶ所、地域子育て支援センター「まなざし」、病児等保育施設「わらっぺホーム」の受託運営等の事業を展開し、遠野市における子育て支援の中核的な役割を担うとともに、安定的な経営に努めました。

また、当協会を取り巻く環境の変化への円滑な対応を図るための取組みを行いました。一つには、経営基盤の確立を図り、諸々のサービスの提供を通して地域貢献していくために策定した第 2 期健全経営計画（元気プラン）の的確な推進を図るとともに、二つ目には、宮守 3 園の運営移行に伴う市内保育園の運営の一元化を図りました。三つ目には定款や各規則などを見直し、社会福祉法の改正に伴う対応を行いました。

以下、平成 28 年度事業計画に基づいての詳細な事項を記載します。

(1) 第 2 期健全経営計画（元気プラン）の的確な取組み

少子化の進行や女性の就業率の向上、保育士不足など当協会を取り巻く環境の変化に速やかに対応するとともに、将来にわたり安定的な経営基盤の確立を図り、諸々のサービスの提供を通して地域貢献していくことを目的に、平成 28 年度に 10 ヶ年計画として策定した第 2 期健全経営計画（元気プラン）の的確な取組みに努めました。

(2) 宮守 3 園の円滑な運営移行

平成 27 年 10 月 1 日に遠野市 10 周年（市村合併）記念式典において協定書に調印し、平成 28 年 4 月 1 日から運営を行っております宮守 3 園（旧公立 3 園）の円滑な運営移行を図りました。

特にも、移行前の保育園の運営や保育を尊重し、急激な変更による園児や保護者に不安を与えることが無いように配慮した運営を行いました。その結果、園児は毎日笑顔で登園し元気に園生活を送るとともに、園児の様子を見ている保護者からも苦情や不安の声はあまり聞こえませんでした。

(3) 社会福祉法改正への的確な対応

財務規律及び経営組織の強化、事業運営の透明性の向上、地域における公益的な取組みを実施する責務などを柱とした社会福祉法の改正への対応を的確に対応するため、セミナーなどに参加し適切な対応への情報収集に努め、定款や諸規定の見直しを行うとともに、

公認会計士や税理士の指導を受け「社会福祉法人会計基準」に則した適正な会計処理にも努めるなど諸々の準備・強化を図りました。

(4) 情報発信の取組み

各施設職員をスタッフとして、協会や保育園、児童館・児童クラブ、子育て支援センター、病児等保育施設の子ども達の様子や活動の内容等の発信に取り組みました。

① ホームページ

開設している協会ホームページに施設ごとに毎月2回以上、季節ごとの子どもたちの様子や行事、お知らせなどを更新し、新しい情報を伝えるように努めました。ホームページへのアクセス数は、協会全体で年91,347回と前年比121%となっております。

なお、現在、ホームページの改修作業をしており、この6月からはリニューアルした画面でより充実した情報を提供できる見込みです。

② オリジナル番組「とおのっ子バンザイ」

「元気・笑顔・とおのっこ」を共通テーマに各施設での児童の様子や行事などを遠野テレビと連携して番組を制作し、毎月第4火曜日に3分間の放送を行いました。

③ 機関紙「かたぐるま」の発行

事業報告・決算、職員募集、各施設の活動状況、子育てワンポイントなどを掲載し、年2回（8月・11月）全戸配布しました。

(5) 職員管理等

① 職員の配置と処遇改善

今年度当初の職員（嘱託職員・正規職員・臨時職員・パート職員等）は279名で、業務施設別には次のとおり配置しました。退職職員は5名（保育士3名・指導員1名・事務職1名）でありましたが、保育士10名（公立からの移管4名を含む）、栄養士2名、指導員3名、事務職1名を採用し、正規職員の数89名（前年比9名増）となりました。

	嘱託職員	正規職員	臨時職員		合計
			基準職員	パート職員等	
保育園		80	72	58	210
児童館等	5	4	19	24	52
子育て支援		(兼1)	1	3	4
病児等保育		1		6	7
本部事務局	1	4		1	6
合計	6	89	92	92	279

また、安定した人材の確保・定職を図るため、給与等の見直し及び一時金の支給による処遇の改善（臨時職員含む）を実施しました。

② 人材の育成

職員の資質向上と人材育成を図るため、キャリアパス制度と連動した研修システム化を構築し、新採用職員研修や新人や若手職員を対象にしたOJT、職員並びに保育園、児

童館の課題等を踏まえた園・館内研修、各園の担任等を中心としたグループ研修を計画的に実施するとともに、園長、主任、保育士、栄養士、遊びの指導員など職位・職責に対応した研修やセミナーに参加させるなど人材育成に努めました。

(6) 安全管理

児童等の事故防止のために子供の心身の状態等を踏まえつつ、遊具を含めた施設内外の安全点検に努めるとともに、安産対策のための体制づくりを図りました。また、災害や事故の発生に備え、定期的な避難訓練等も実施しました。

(7) 会議等の開催

① 評議員会（評議員 15 名）の開催

法人運営の重要事項等について意見を聴くため、年度 5 回開催しました。

（詳細は、別紙参照）

② 理事会（理事 7 名・監事 2 名）の開催

法人運営の重要事項等について決定を行うため、年度 6 回開催しました。

（詳細は、別紙参照）

③ 「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」の開催

苦情解決第三者委員 2 名・全施設長等で組織される「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」を開催し、保育園・児童館等法人施設に寄せられた苦情、起こった事故等について事例検証を行い、意識、対応等の共有化に資するため 2 回開催しました。

（詳細は別紙参照）

④ 契約等予定者選定委員会の開催

工事及び物品購入等業者選定の適正を図るため、年度 6 回開催しました。

（詳細は、別紙参照）

⑤ 「定例園長会議」・「定例館長会議」の開催

保育園・児童館等法人施設間の連絡調整や相互連携を期すため、それぞれ、毎月 12 回開催しました。なお、合同のものは、施設長会議を開催するなど対応しました。

(8) 保育園定員の見直し

平成 27 年度にも定員の変更を行いました。更に充実した保育実施に向け、地域偏在の現状・傾向を反映した保育園定員とする見直しを行いました。（平成 29 年 4 月適用）

保育園定員の見直し状況

（全体定員 885 人）

保育園名	見直しの視点	変更前の定員	変更後の定員	増 減
認定こども園	減員する	100	95	5
宮守保育園	(内訳：幼稚園分)	(20)	(15)	(△ 5)

2 保育園の経営

運営移管された宮守 3 園を含めた 13 の保育園において、施設の立地環境等を生かしながら創意と工夫ある保育に努めました。また、保育課程を編成することは勿論ではありますが、卒

園児 156 人の子どもの育ちの記録（保育要録）を作成、各入学予定小学校に送付し、地域で育つ子ども達の連続性の確保に努めました。

保育士の配置では、保育の質向上をねらい、その共通理解のもと保育士、看護師、栄養士など資格を有する職員の充実配置に努めました。

運営においては、宮守 3 園のうち協定に基づいた遠野市からの運営費助成を受けたのは鱒沢保育園のみで、宮守保育園及び達曽部保育園は当初計上していた運営費助成を返還するとともに、10 カ所の保育園においては積立資産（人件費又は施設整備）への積立ができるなど公定価格の単価改定などの要因により安定した経営が図られ、概ね順調に推移しました。

なお、運営費収入に対する人件費率は、退職者 3 名に対し 12 人の採用で正規職員が 9 人増加したことと、保育士等処遇改善として給与等の改定や一時金として支給したことから前年比 1.1 ポイント上昇しました。

運営費・人件費 (単位：円、%)

	H28	H27	H26
運 営 費 収 入	915,329,840	767,957,100	742,922,650
人 件 費 支 出	745,677,769	617,511,121	594,005,050
人 件 費 率	81.5%	80.4%	79.9%

※H26, 27 は宮守 3 園を含まず

(1) 入所児童

入所児童数は、宮守 3 園が増えたことにより単純比較はできませんが、815 名（当初入所児童数 762 名でスタート）と総定員(890 名)比 91.6%と下回りました。これは、少子化に伴う児童の減少が原因と考えられます。

入所児童数 (単位：人)

	H28	定員比(890名)	H27	H26
当 初 入 所 児 童 数	762	85.6	671	724
当初入所児童見込数	749	84.2	669	755
入 所 実 績	815	91.6	719	758

※H26, 27 は宮守 3 園を含まず

(2) 保育の質向上への取り組み

グループ研修（未満児・3歳以上児・給食等 11 グループ）を開催し、保育サービスの充実と保育にあたる職員の意欲・資質向上に取り組みました。

また、保育課程については、園内研修等を充実させ、子どもの育ちの連続性を生かしていく保育を実現していくため、一人ひとりに合った細やかな保育の実施に努めたほか、県内外の各種専門研修に積極的に参加させ、職員の自己研鑽意識の醸成を図るとともに、協会独自の自主研修組織「双葉会」と連携し、職員研修機会の提供に努めました。

① 質の高い保育サービスの提供

各保育園で保育計画の展開状況や保育士等の自己評価を踏まえ、園としての保育内容に対する自己評価を実施するとともに、評価結果を分析し、園として取り組むべき課題

を明確にして改善を進め質の高い保育サービスの提供に努めました。

② 職員の確保と連携強化

年度途中での有資格者の確保ができにくい状況を踏まえ、年度当初から職員配置基準を意識した有資格者の確保に努め、途中入所増にも対応できる体制づくりに努めました。

また、保育業務をチームとして遂行するため、主任・副主任保育士が指導・相談など、職員間のパイプ役として、専門職員相互の機能性を高めるとともに、保育意欲の向上、職員間・臨職等との実務経験の差解消に努め現場での問題解決力の向上を図りました。

職員配置状況

単位：人

	園長等	基準職員等					基準外職員					合計
		保育士	看護師	栄養士	調理員	計	保育士	保育補助	調理補助	看護師	計	
①当初配置	13	110	2	9	14	148	22	26	9	3	60	208
うち正規職員	13	54	2	9	1	79	—	—	—	—	—	79
②年度末配置	13	114	3	9	14	153	26	34	9	3	72	225
②—①	0	4	1	0	0	5	4	8	0	0	12	17

③ 食育の充実

保育と食育は両輪と捉え、各園において、安全安心、楽しい食と健康を守る自園調理の提供に取り組むとともに、保護者への情報提供にも努めました。また、食物アレルギーの対応には十分注意をはらい 28 人分の除去食も実施しました。（詳細は別紙参照）

④ 公開保育の実施

各保育園の保育の実践事例から学び合い、職員相互に保育を見て刺激を受け自身の保育内容を深めていく公開保育を自主研修組織双葉会と連携し、次のとおり実施しました。

「公開保育」実施状況

公開施設	公開月日	テーマ	職員参加人数
綾織保育園	平成 28 年 6 月 28 日	遊びの環境と保育士の関わり方	23 人
松崎保育園	平成 28 年 7 月 22 日	2 歳児クラスの遊び・活動の様子と保育士の関わり方	21 人
上郷保育園	平成 28 年 9 月 28 日	3 歳児クラスの遊び・活動の様子と保育士の関わり方	26 人
宮守保育園	平成 28 年 10 月 26 日	遊びから広がる友だちの輪	30 人

(3) 特別保育の充実と「病児等保育」の受託

① 特別保育の充実

各保育園で提供している特別保育事業（地域活動・延長保育・一時保育・休日保育・障害児保育）の充実を図り、多様化する保育及び地域のニーズに対応しました。

② 「病児等保育」の受託【「遠野市病児等保育施設」(わらっぺホーム)】

病児等への適切な看護及び保育を通して、保護者への育児相談及び就労支援の提供を行いました。特に、岩手県立遠野病院小児科医や市子育て総合支援課等と情報を共有し適切な対応を行うとともに、0～2歳児の利用時には、情緒の安定を図るため可能な限り1対1の保育看護に努めました。

また、保育園看護師との情報交換を毎月開催し、保育園での疾患対応や保健衛生に関する情報の共有を図るとともに、感染症については、独自に作成した「遠野市保育協会登園基準マニュアル」に基づき、予防等の対応を徹底しました。

利用傾向については、発熱を伴う風邪と胃腸炎が年間を通して続き、繰り返し利用する子どもが多かった。また、12月以降にはインフルエンザの流行による利用が多かった。利用実績については、利用延べ人数は、前年より38人減少しました。

「病児等保育」利用実績

単位：日、人

	H28	H27	H26	H25	H24
開室日数	244日	241日	242日	241日	242日
利用延べ人数	553人	591人	527人	559人	508人
1日平均	2.26人	2.45人	2.17人	2.3人	2.1人

(4) 園舎等施設整備

長期施設整備計画に基づき、平成28年・29年の2カ年事業として、附馬牛保育園改築整備に着手し、平成28年度は設計業務を委託しております。平成29年8月以降に建築工事が開始される見込みとなっています。その他では、運営費の中で必要な施設補修等を実施し、施設の安全管理に努めました。

3 児童館・児童クラブの運営

少子化や核家族化、地域社会の希薄化など就学後の子ども達を取り巻く環境は大きく変化している中で、当協会では、6児童館を指定管理者として、5児童クラブを受託によって、市内11小学校区全てにおいて、放課後学童の居場所として、遊び(体験・交流・学び等)を通して健全育成を図りました。

学校行事等の兼ね合いなどにより利用状況は増減いたしますが、現在のように子ども達を取り巻く環境が大きく変化している状況下、放課後の居場所としての役割は益々重要となっていると思慮されます。

児童館・児童クラブの利用登録児童数(実数)

施設名	H28		H27		H26		
	実績(人)	前年比(%)	実績(人)	前年比(%)	実績(人)	前年比(%)	
小	利用登録数	1,015	100.8	1,007	96.9	1,039	95.8
学	年間延べ利用人数	127,010	96.3	131,845	102.7	128,353	100.1
生	1日平均利用人数	44.4	87.6	50.7	106.7	47.5	106.0

全体	利用人数	134,571	96.1	139,988	102.8	136,216	99.5
	1日平均利用人数	47.1	87.5	53.8	113.0	47.6	99.5
土曜日	利用児童数	727	100.8	721	120.6	598	87.0
	開館日数	73	100.0	73	107.4	68	93.1
	1日平均利用人数	10	101.0	9.9	113.8	8.7	92.5
年間開館日数等 (土曜日を除く)		2,860		2,860		2,860	

※全体＝小学生、幼児、中学生、高校生、一般の利用者の合計

(1) 職員配置

館長は複数館担当として6児童館・5児童クラブに5名を委嘱し対応しました。

職員体制は、各館2名を基本として主任1名と副主任1名、遊びの指導員を配置するとともに、利用状況に応じて柔軟に増員対応し活動の充実を図りました。

また、要支援児童の利用対応についても、その児童の状況により増員配置しました。

職員配置状況

単位：名

館長	遊びの指導員			計	館長を除く	
	主任	副主任	指導員		児童館	児童クラブ
5	1	1	45	52	32	15

(2) 職員の資質の向上及び指導内容の充実

児童館・児童クラブは、年齢や発達状況が異なる子ども達と一緒に過ごす場所であるため、職員には適切に関わる専門性が求められることから内部研修の充実を図るとともに、「児童厚生2級指導員研修」などに積極的に参加させ資質の向上を図った。

また、遊びによる心身の健康維持及び知的・社会的能力を高める様々な活動に自発的に取り組めるような事業やプログラムを工夫するなど内容の充実に努めました。

更には、全児童館・児童クラブや中学校区ごとに交流する場として、合同事業を積極的に実施しました。

(活動状況の詳細は、別掲 児童館(2)合同事業を参照。)

(3) 要支援児童への対応

近年、増加傾向にあります要支援児童の対応については、職員を増員し児童に寄り添った対応を図るとともに、養護の専門家のアドバイスも受けながら、小学校との連携はもとより、保護者や健康福祉の里・花巻清風支援学校遠野分教室などの専門機関、地域と連携して対応しました。

要支援児童数

H28	H27	H26	H25
37人	38人	39人	25人

(4) 子育て（サークル活動）支援

在宅の親子に、就学児童が利用しない午前中の時間帯を中心に児童館・児童クラブ施設を活動場所に開放しながら、仲間意識の高まりや自主的に活動が行えるよう支援を行いました。また、子育てに関わる悩みや相談対応を各保育園と連携して行いました。

各地域子育てサークルの状況

(単位：世帯)

子育てサークル名	関与館名	登録世帯数			活動内容
		H28	H27	H26	
ひよこクラブ	遠野児童館	21	23	20	※別掲 子育て支援センター まなざし活動の(3)各 サークルの活動状況 を参照のこと
すくすくクラブ	綾織児童館	10	10	4	
子育ておしゃべり会	白岩児童館	17	18	14	
つくしんぼクラブ	附馬牛児童クラブ	1	5	3	
にこにこクラブ	小友児童クラブ	1	2	0	
ひまわりクラブ	土淵児童クラブ	12	13	11	
たけのこクラブ	青笹児童館	13	21	13	
かみごうっこクラブ	上郷児童館	12	12	5	
宮守カンガルー教室	宮守児童館	10	6	8	
計		97	110	78	

※ 他に遠野聖光のサークルあり

4 地域子育て支援センターの運営

施設の設置から13年を迎えた子育て支援センター「まなざし」は、これから子どもを持つ母親、子育て中の母親や父親の交流の場になっており、気軽に子育ての情報交換や、親子が触れ合って遊ぶ場、更にはリフレッシュの場として利用されています。

また、各子育てサークルや各関係機関（子育て総合支援課、福祉の里、助産院）との連携を深め、支援を必要とする親子や子どもの育ちにおける様々な早期発見に努めました。

職員等事業推進体制

白岩保育園上席主任看護師 兼地域子育て支援センター所長	保育士
1名	3名

地域子育て支援推進担当者	子育てサークル
各保育園主任保育士	児童館等職員
12名	11名

(1) 「まなざし」の活動充実

子育て支援では「まなざし」が核となって、保育園や児童館、主任児童委員など地域との連携により、利用する子育て親子の悩みや母親同士のつながりから育児の励みにもなっています。

各地区の子育てサークル活動支援、リフレッシュ交流の場としての合同事業などニーズに合った企画の実施など、子育て支援ボランティア「クレヨン」と連携し、取り組みました。

利用者も年間利用人数は、2,034人に上り子育て支援の一翼を担っています。

(2) 支援団体等との連携

地区の主任児童委員と地域子育て支援センター・地域子育て支援推進担当者（各園主任保育士）・児童館等職員が連携を取り、赤ちゃん訪問活動等を通して実態把握に努めるとともに、子育てに関する各種サービスのPRなどを行い利用促進に努めました。

また、子育て支援ボランティア「クレヨン」や協会退職職員（OB）組織「陽だまりの会」と連携し、専門性・豊かな経験を活かし、多様な子育て支援のニーズに対応した活動を展開しました。